

ローマ人への手紙第8章——全聖書の中心点と宇宙の中心

聖書：ローマ8:2, 10, 4-6, 11, 13-15, 28-29

- I. ローマ第8章が啓示しているのは、手順を経た三一の神が命の霊の法則として、信者たちの生活のために彼らに神聖な命を与えるということですから——2, 10, 6, 11, 28-29節：
- A. 神の願いと目標とは、わたしたちが神聖な命によって生き、他の人たちに命を供給して召会を建造するということです。この命はキリスト・イエスの中にあり、それは命の霊の法則の命です。すべてを含む内住する霊は、この命をわたしたち一人一人の中へと絶えず伝達して召会を建造し、聖徒たちを成就し、わたしたちと接触するあらゆる人にキリストの豊富を供給します——2節。 II コリント3:6. I ヨハネ5:16。
- B. わたしたちは、人が命の霊の法則によって生活する道を見る必要があります。わたしたちは命の霊の法則によって制御され、指示されて、真の、正常なクリスチャン生活を経験しなければなりません——ローマ8:2：
1. わたしたちは霊にしたがって歩く必要があります——4節：
- a. もしわたしたちが自分自身の目的、権益、益のためにどんなことでも主張するなら、たとえそれ自体が罪深くなく、不道德でないとしても、わたしたちは肉にしたがって歩いているのです。
- b. 聖書によれば、第三の選択や中立の立場はありません。すべては肉にしたがっているか、霊にしたがっているかのどちらかです——4, 6, 9節。 ヨハネ3:6. ガラテヤ5:17. 6:8. I ペテロ3:18。
- c. わたしたちが肉を除き去るとき、残るのは霊です。わたしたちは肉が何であるかを知っているので、ただ肉にしたがって歩かないことによって、霊にしたがって歩くことができます。
2. わたしたちは霊にしたがっている必要があります——ローマ8:5：
- a. 霊にしたがっており、肉にしたがっていない生活は、内側の法則、すなわち命の霊の法則を実際化することです——2節。
- b. 肉にしたがっていることは、引力の法則にしたがって地上にとどまることのように、罪と死の法則にたとえることができます。
- c. 霊にしたがっていることは、航空力学の法則にしたがって飛行機の中にいることのように、命の霊の法則にたとえることができます。

- d. わたしたちのミングリングされた霊の中にある命の霊の法則には、わたしたちの肉の中にある罪と死の法則に打ち勝つ力があります。
 - e. わたしたちが霊にしたがうことを選ぶなら、命の霊の法則は自然に罪と死の法則からわたしたちを解放します。命の霊の法則はわたしたちの助けを必要とするのではなく、わたしたちの承諾を必要とします——参照、6節。
 - f. あらゆる所で、またあらゆる時に、わたしたちは霊を活用して、命の霊の法則の「スイッチを入れる」という霊的な習慣を建て上げる必要があります——Iテモテ4:7。
 - g. 命の霊の法則、神の霊、キリストの霊、復活の霊は、あらゆる信者の中へと設置されています。彼の命の供給を受けるために、わたしたちは主の御名を呼び求め、彼を礼拝し、感謝し、賛美し、高く上げることによって、わたしたちの霊を活用する必要があるだけです——イザヤ12:2-6。
3. わたしたちはその霊の事柄を思う必要があります——ローマ8:5:
- a. その霊の事柄を思うことは、わたしたちの思いをその霊の事柄に付けることです。それは常にわたしたちの思いをその霊の事柄、すなわちキリストに関する事柄で占有させることです。
 - b. 神の霊の事柄は神の深い事柄です。キリストを神の深い事柄として認識し、キリストにあずかることは、わたしたちが彼を愛することを必要とします——Iコリント2:9-11, 14。
 - c. わたしたちは訓練して、わたしたちの思いをその霊の事柄、すなわちキリストに関する事柄で絶えず占有させるという習慣を建て上げる必要があります。
 - d. 雅歌において、追い求める者は主に対する愛に病んでいました(2:5, 5:8)。彼女の思いの中にはただ主だけがおられました。わたしたちはそのような思いを持つ必要があります。
 - e. 霊の戦いの秘訣は、わたしたちの思いを空にすることではありません。二つの霊、神聖な霊とわたしたち人の霊は、キリストに関するすべての事柄をわたしたちの思いに結合します。わたしたちの思いが二つの霊によってキリストに関する事柄に結合されている限り、わたしたちは勝利を得ます——ローマ8:6, 16。
 - f. ローマ第8章6節における「霊に付けた思い」という表現は、文字通りには「霊の思い」です。キリストの思い、霊の思いは、キリストで満たされ、占有され、浸透された思いです——ピリピ2:5, Iコ

リント2:16。

4. わたしたちは体の行ないを死に渡す必要があります——ローマ8:13,
5:

- a. 体の行ないはわたしたちの古い習慣です。これらの行ないは罪深い事柄だけではなく、その霊から離れて、わたしたちの体によって行なわれるすべてのことを含んでいます。
- b. わたしたちは内住の霊と組み合わされて、率先してわたしたちの体の行ないを死に渡す必要があります。そうすればその霊は入って来て、キリストの死の効力をこれらの行ないに適用し、こうしてそれらを殺します。

5. わたしたちは神の霊によって導かれる必要があります——14節:

- a. わたしたちはその霊の導きを尋ね求める必要はありません。なぜなら、すでにその霊はわたしたちの内側にあり、わたしたちの再生された霊の中に住んでいるからです。わたしたちはただこの導きの下に生きる必要があります。わたしたちの生活と行動、人の振る舞いは、わたしたちが神の子たちであることを証明する必要があります。
- b. ここの導きは、単にその霊の行動であるだけではなく、三一の神ご自身がわたしたちの霊の中で導きとなることです。わたしたちが彼をわたしたちに内住するパースンとして顧慮するなら、自然に彼によって導かれます。

6. わたしたちは「アバ、父よ！」と叫ぶ必要があります——15節:

- a. 「アバ」はアラム語であり、「父」はギリシャ語の「パテル」の翻訳です。アラム語の称号とギリシャ語の称号が組み合わされて、御父に叫ぶときのさらに強い愛情を表現します。
- b. そのように愛情深く叫ぶことは、真の子と生む父の間の命における親密な関係を暗示します——16節。

II. ローマ第8章は全聖書の中心点と宇宙の中心とみることができます。こういうわけで、わたしたちはローマ第8章を経験しているなら、宇宙の中心にいるのです:

- A. 永遠の過去において、神はご自身の贖われた民の中へと入って彼らの命となり、彼らをご自身の団体の表現とすることを計画されました。これが神のエコノミーの中心点です——エペソ1:3-5。
- B. 人は神の創造の中心です。なぜなら、神の意図は人を通して表現されることであるからです。人が神の表現となることができるのは、神が人の中へと入って来て人の命、また内容となり、人を神と一にして、人が神

によって生き、さらには神を生かし出すことによります。こうして神は人の内側から表現されます。

- C. ゼカリヤ第12章1節は言います、「天を延べ、地の基を据え、人の霊をその中に形づくられたエホバはこう告げられる」：
1. 人の霊は天と地と同格です。なぜなら、わたしたちの霊は神が住むことを願う所であるからです——エペソ2:22. 参照、Ⅱテモテ4:22。
 2. 天は地のためであり、地は人のためであり、人は神によって霊を持つ者に創造されました。それは人が霊をもって神と接触し、神を受け入れ、神を礼拝し、神を生き、神のために神の定められた御旨を完成し、神と一になるためです。
- D. 宇宙における中心の焦点とは、手順を経た三一の神がわたしたちの中へと入って来て、今やわたしたちの中に住んでいるということです。これは最大の奇跡です。宇宙においてこのことよりも重要なことはあり得ません——イザヤ66:1-2. ヨハネ14:23; 15:4。
- E. 三一の神がわたしたちに内住し、わたしたちと一であるので、わたしたちはみな喜びに満ちているべきです。彼はわたしたちの命であり、わたしたちのパーソンです。彼はわたしたちをご自身のホームとしつつあります——エペソ3:14-17。
- F. ローマ第8章における内住の霊は三一の神です：
1. 「神の霊」という表現において、霊と神は同格であり、その霊と神が一であることを示しています——ローマ8:9。
 2. 同様に、ローマ第8章における「キリストの霊」、「イエスを死人の中から復活させた方の霊」、「命の霊」は、その霊がキリスト、復活した方、命であることを示しています。こういうわけで、その霊がわたしたちに内住しているので、三一の神の三はみな、命としてわたしたちの中におられるのです——9, 11, 2節。
 3. ローマ第8章におけるその霊は、三一の神の究極的完成また適用としてのすべてを含む霊です。その霊は、わたしたちに届き、適用される三一の神です。
 4. 三一の神はすべてを含む霊としてわたしたちの内側にいます。それはわたしたちが彼をわたしたちの命またパーソンとすることによって、経験し、享受するためです。わたしたちは三一の神の器です——Ⅱコリント4:7。
- G. キリストがわたしたちの中へと入るとき、わたしたちの霊は再生され、わたしたちの霊を命とします（ローマ8:10）。わたしたちが主を愛し、

わたしたちの思いを彼に関する事柄に付けるとき、わたしたちの思いは命です（6節）。さらに、復活させる方の霊がわたしたちに内住しているなら、彼はわたしたちの体に命を与えます（11節）：

1. 神のエコノミーと永遠の定められた御旨によれば、神がご自身の救いにおいて行ないたいことは、ご自身をわたしたちの命としてわたしたち贖われた民の中へと造り込むことです。ご自身を命としてわたしたちの中へと造り込むという神の願いが、聖書の中心点です。
2. わたしたちの霊、思い、体に与えられている命は、三一の神の究極的完成また適用としての内住の霊です。
3. わたしたちが弱く、命に欠けているのは、霊的な呼吸に不足しているからです。霊的に呼吸することは、主の御名を呼び求めることです——哀3:55-56. 詩歌73番の2節。
4. わたしたちが絶えずその霊を命として吸い込み、彼にわたしたちの存在のすべてへと広がっていただくとき、キリストがますます多くわたしたちの中へと加えられます。これはわたしたちの存在の中で主観的な神を所有し、経験し、享受することです。
5. こうして神がわたしたちの存在の中へと加えられるとき、わたしたちは命の要素を受けます。それはわたしたちを成長させて、キリストのからだを建造します——コロサイ2:19。
6. わたしたちがこの命の要素をもって成長しつつあるとき、命の霊の法則はわたしたちの中で自動的に働き、わたしたちをキリストのかたちへと形作り、同形化します。キリストのからだ、キリストの豊満、新しい人、神と人との相互の住まいは、わたしたちがこの命を経験することから来ます——ローマ8:29。
7. 究極的にこの命はキリストの花嫁を整え、主の再来をもたらし、わたしたちを次の時代へと導きます。こういうわけで、聖書と宇宙の極めて重要な中心点は、ローマ第8章にあるのです。